

成果報告書

助成事業の名称：国際学会「12th Indo-Pacific Fish Conference」への参加および研究発表

北海道大学大学院水産科学院
博士後期課程 3 年 樋口淳也

1. 助成事業の概要

2025 年 6 月 9–13 日に台湾台北市で開催された国際学会「12th Indo-Pacific Fish Conference」(以下, IPFC)および6月15日に沖縄県で開催されたそのサテライトシンポジウムに参加し, “Validity of subfamilies and genera of Triglidae based on phenotypic phylogeny”の題でライトニングトークおよびポスター発表を行った。また, 台湾および沖縄への渡航に合わせ, 国立台湾大学(6月2–6日)および美ら島財団(6月18–20日)での魚類標本の観察を実施した。

2. 学会発表

魚類の分類群であるホウボウ科とキホウボウ科の系統関係について, 先行研究では分子系統学と形態学では結果が対立し, 一定の結論が得られていなかった。本研究では表現型に基づいた解析を行い, 分子系統学と同一の結果が得られ, 各分類群を形態によって再定義した。本内容について IPFC では5分間のライトニングトークおよびポスター発表を(図1), サテライトシンポジウムではポスター発表を行った。ポスター発表ではコアタイム中に数多くの研究者と質疑応答を行った。進化と形態の関係について多くの質問を受けた一方で, 類似した研究を実施している研究者がいないため, 当初期待していた方法論の議論はできなかった。しかし, 表現型の解析については概ね好意的な評価を受けたことで, 本研究の立ち位置と重要性を客観的に認識することに繋がった。

聴講における成果としては, 幾何学的形態計測を利用した形態学や分子系統を利用した集団遺伝学の研究発表を数多く聞き, 今後の研究の参考になった。また, 私の研究分野とは異なる生態学や古生物学の最新の研究成果を聞くことができ, 知見を大きく広げることができた。

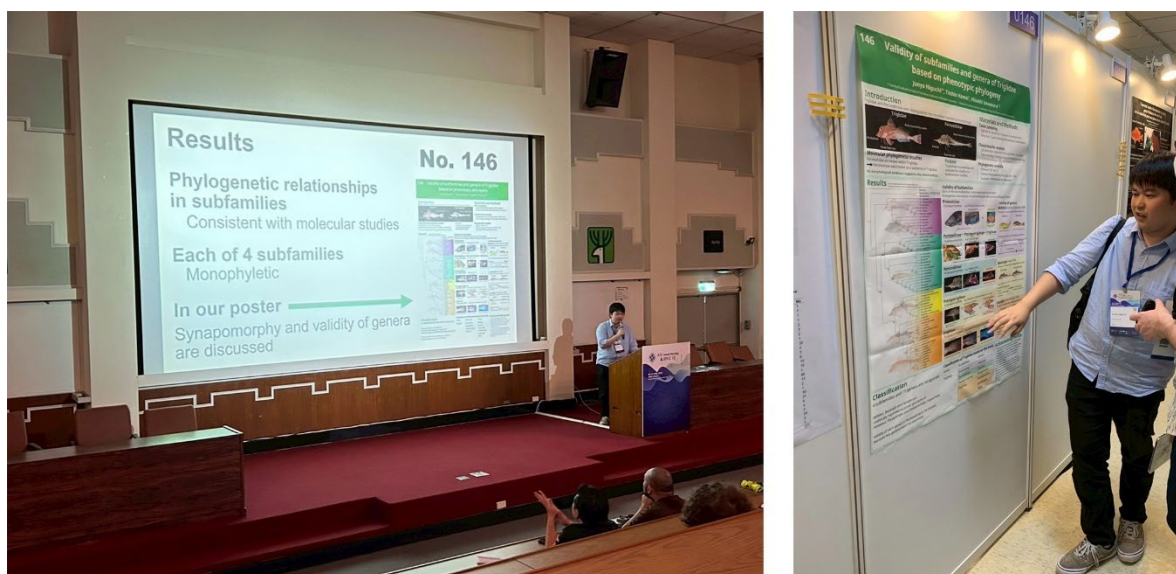


図1. (左) ライトニングトークでの発表, (右) ポスター発表での説明。

3. 標本観察

国立台湾大学（図 2）ではホウボウ科 21 個体とサイウオ科 5 個体の標本観察を行った。また、現地の学生とホウボウ科の個体変異についての議論を行い、新知見を得ることもできた。美ら島財団ではホウボウ科 15 個体とサイウオ科 1 個体の標本観察を行った。また、美ら海水族館で飼育中のホウボウ科魚類の見学も行い、短時間であるが深海性のホウボウ科の行動を観察した。ホウボウ科のデータは博士研究に取り入れるとともに、分類学的研究にも使用する予定である。サイウオ科の標本観察によって得られたデータは他種との比較を行い、年内に論文として投稿できるように準備を進めている。



図 2. (左) 国立台湾大学魚類標本館 (右) 標本観察の作業テーブル.